

木田宏教育資料「木田文庫」の整理と利用

谷 里 佐

岐阜女子大学

(2012年9月20日受理)

Arrangement and Use of “Kida Bunko”, Hiroshi Kida’s Educational Materials

Gifu Women’s University, 80 Taromaru, Gifu, Japan (〒 501-2592)

TANI Risa

(Received September 20, 2012)

1. はじめに

木田宏教育資料とは、元文部事務次官故木田宏氏の書籍や話の記録（「木田宏オーラルヒストリー」）等の資料群を指す。木田氏は、昭和21年（1946）に文部省（現・文部科学省※以下同様）に入省され、教科書または教科書制度、教育委員会制度等、戦後の教育に関わられ、文部事務次官、国立教育研究所長、新国立劇場理事長等を歴任され、多くの教育関係の書籍、資料類を残された。

主に、昭和21年～平成17年（2005）頃までの戦後の多様な教育関連資料が残されている。とくに、教科書制度や教育委員会制度、昭和20年代の帝国議会、教育基本法の成立、米国教育使節団等の関連資料が多く、また、話の記録である「木田宏オーラルヒストリー」の中には、戦後教育に関わられた木田氏の実際の証言として、資料と併せ話された記録が残されている。

これらは、教育分野における基礎的な資料および証言であり、教員、大学院生、学部生等にとっても、今後の教育実践、研究の基礎として役立つ文献資料といえる。

この膨大な資料群を、木田氏およびご家族のご厚意により、教育研究用として、平成16年（2004）に、図書5,959冊、雑誌4,188冊の計10,147冊、平成24年（2012）に追加として図書125冊の総計10,272冊を岐阜女子大学に寄贈いただいた（その他、ノート、ハガキ類といった資料も寄贈いただいた）。

岐阜女子大学に寄贈いただいた資料は、「木田文庫」として整理し、利用に供している。

2. 木田宏氏と木田宏教育資料

（1）木田宏氏について

木田宏氏は、大正11年（1922）広島県尾道市生まれ。昭和16年（1941）京都帝国大学（現・京都大学）に入学し、在学中の昭和18年（1943）高等文官試験に合格する。しかし、同年学徒動員により、シンガポールの第3船舶輸送司令部などで兵役につくことになる。復員後の昭和21年（1946）文部省に入省。以後、教科書局を皮切りに文部事務官としての生活を始めた。文部省各局のほか、千葉県教育委員会、第1回日米フルブライト交流による米国留学なども行った。そして、

社会教育局長、体育局長、大学学術局長、学術国際局長を経て、昭和51年（1976）文部事務次官に就任。昭和53年（1978）に退官した。退官後も、国立教育研究所長、日本学術振興会理事長などを務め、また、国立教育政策研究所名誉所員、国立情報学研究所参与、国際基督教大学監事、日本教育情報学会会長、日本教育行政学会理事長など数多くの要職を歴任した。平成17年（2005）6月27日、千葉県市川市のご自宅にて急逝された。

木田氏は、文部省入省後、文部官僚として、教科書制度、憲法・民主主義に関わる教科書などの作成、昭和30年頃の教育委員会制度の改革など、20世紀の教育改革の大きな激動期に携わってこられたといえる。また、教育改革、学習指導要領など、教育の歴史上、多くの功績を残された。

(2) 木田宏教育資料

「木田宏教育資料」は、木田氏の、主に文部省における各種の仕事において、その過程で作成された書籍・資料類の集合体である。

その内訳は、木田氏の著された原稿を中心とした冊子『木田宏教育資料』と木田氏の所蔵書籍類および木田氏の話をまとめた「木田宏オーラルヒストリー」であり、冊子『木田宏教育資料』および「木田宏オーラルヒストリー」は、岐阜大学教育学部附属カリキュラム開発研究センター（現・岐阜大学総合情報メディアセンター）、松下教育研究財団（現・パナソニック教育財団）、岐阜女子大学によって、収集、整理、保存されてきた。

① 冊子『木田宏教育資料』

『木田宏教育資料』は、岐阜大学教育学部附属カリキュラム開発研究センターにて、平成7年（1995）から数回に分けて実施された木田宏氏の話の記録と著された原稿などをま

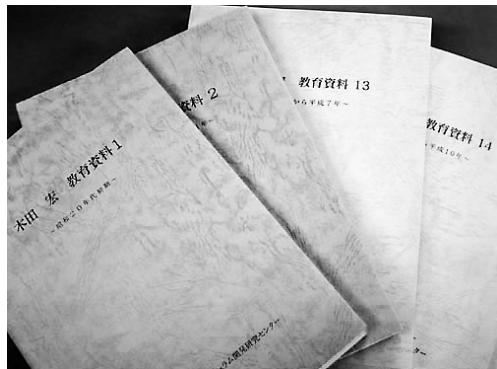


図1 『木田宏教育資料』

とめた冊子である。主に、木田氏の各論文、雑誌、新聞などへの掲載原稿と講演会やシンポジウムの講演録や祝辞などが収録されており、編年順で整理されている。

そもそも、これらの資料群の収集、整理は、岐阜大学教育学部附属カリキュラム開発研究センターにおいて昭和59年（1984）にはじめられた。後藤・加納（1997）によれば、当時、木田氏が所長をされていた国立教育研究所の教育情報システムの設置にあたり、岐阜大学教育学部附属カリキュラム開発研究センターが協力し、日本語の教育文献データベースの導入を進めたことがはじまりであるという。その契機について、当時、岐阜大学教育学部長であった後藤忠彦氏（現・岐阜女子大学長）は、「木田宏教育資料のデジタルアーカイブ化について」（文化情報研究7（2））で次のように記している。

（前略）（筆者注・木田）先生が国立教育研究所長をされていた昭和57年に教育情報センターの設置のため、「教育情報センター構想に関する調査研究会」（昭和57年～59年度・委員長手塚晃先生）が開催され、そのおり、たまたま、先生の書かれた資料のリストを見せていただくこととなり、その中に、戦後の

貴重な教育資料があることを知り得ました。

その後、国立教育研究所にコンピュータが設置され(昭和59年12月),岐阜大学カリキュラム開発センターで開発していた教育情報システムであり、興戸律子さんが中心になって収集し、作成してこられた教育文献情報データベース(EDMARS)の移植につき、加納豊子を中心には、数名の学生が協力し、木田先生の書かれた文献リスト類をデータベースに記録したのが、後に、木田宏教育資料を作成するきっかけとなったと思います。

このように、冊子『木田宏教育資料』の整理は、岐阜大学教育学部附属カリキュラム開発研究センターの教職員の方々によって進められた。

② 木田氏の所蔵書籍寄贈と「木田文庫」

「木田文庫」は、木田宏氏のご自宅の書庫に保管されていた木田氏所蔵の書籍、資料類の中から、平成16年と平成24年に岐阜女子大学へ寄贈いただいたものをまとめ図書館に配架したものを指す。とくに、平成24年に寄贈いただいた追加書籍、資料類は、歴代文部大臣式辞集、木田氏の原稿、憲法関連ノート等の教育行政分野のもののほか、天野貞祐、和辻哲郎、九鬼周造らの著作があり、追加寄贈いただいたご家族のお話では、木田氏自身が戦前・戦後から大切に保存されていたものであるという。

「木田文庫」の整理にあたっては、歴史・民俗資料などの収集整理において礎とされる“原形保存”・“原秩序尊重”的法則に従い、収集の際に、資料の現状を損なわないよう、書庫の書棚ごとに番号を付与し、その番号ごとに書籍を箱に入れ、収集し、整理した。これにより、木田氏が管理されていた書庫の状態の把握が可能であり、どのような内容でま



図2 木田氏宅で寄贈図書をまとめる学生たち
(平成16年3月)



図3 木田宏氏宅書庫（寄贈前）



図4 岐阜女子大学で整理する学生たち
(平成24年)



図5 岐阜女子大学図書館に配架された
「木田文庫」

とめ、分類されていたかという資料管理の視点を窺い知ることも期待できる。

③ 「木田宏オーラルヒストリー」

「木田宏オーラルヒストリー」は、木田氏の戦後教育についての話をまとめたものであり、多くは、前節①の『木田宏教育資料』第1巻～第5巻に以下の通り収録されている。

・昭和20年代初期における教育について

(平成7年11月29日・30日)

・教育委員会制度の導入と定着

(平成8年5月21日・22日)

・教職員組合について（平成8年5月22日）

・大学問題への取り組み

(平成8年9月4日・5日)

・社会教育、体育、国際化等の諸問題

(平成8年11月22日)

・国立教育研究所時代（平成10年1月31日）

さらに、上記の内容について、平成16年(2004)6月27日・28日に、岐阜女子大学文化情報研究センターにて再度お話しいただき、木田氏の身振り手振りも交えた映像と併せた記録を行った。

平成16年の記録は、「木田宏オーラルヒストリーデジタル・アーカイブ」としてまとめ、文部省（大臣官房）ほかの依頼を受け、

図6 木田宏オーラルヒストリーデジタル・アーカイブ



図7 木田宏オーラルヒストリーDVD

DVDの制作と提供を行った。その他、木田氏のご遺志を伝えるための貴重な教育資料（教材）として、岐阜女子大学公開講座等での教育利用および一部のインターネット公開等を行っている。

3. 研究利用ガイドと研究利用例

木田氏が残された貴重な資料群である木田宏教育資料は、戦後の教科書および教科書制度、教育委員会制度等、多くの課題に関わっている。また、書籍、資料類とともに、オーラルヒストリーも残されている。これらは、教材開発、教育方法、教育制度等、戦後の教育資料としてさまざまな研究利用が期待できるものである。

しかし、「木田文庫」として整理されたこれらの資料群から、大学院生や学部生が必要な資料を見出して研究利用することは困難である。

そこで、大学院生や学部生への研究利用支援として、「木田文庫」・「木田宏オーラルヒストリー」の中から、後藤学長が教育研究に役立つと考えられる戦後から現在までの資料を各分野別で抽出し、いくつかの重要資料等を選び、リスト化して提供する研究利用ガイドの作成を行い、研究利用ガイドの中から、大学院生や学部生が自分の研究に関係のある資料を選び、そこから、他の資料を探し出し、利用する糸口とできるよう配慮した。

たとえば、「木田文庫」には、昭和21年（1946）3月の米国教育使節団に対する文部大臣（当時）安倍能成氏のあいさつ文や木田氏の著作『新教育と教科書制度』をはじめとした教育研究上重要な資料が整理されており、研究利用ガイドではそれらの資料を紹介している。

研究利用ガイドの例

①教育基本法

～旧教育基本法の成立の文献～

「木田文庫」には、旧教育基本法成立時の第62回帝国議会（教育基本法の審議録）、安倍能成文部大臣の米国教育使節団に対する“あいさつ”，田中耕太郎文部大臣の論文等の貴重な文献資料があることを紹介している。

実際に、これらの資料を用いて、岐阜女子大学沖縄サテライト校の大学院生が、教育基本法の成立および新教育基本法における課題について検討している。

②教科書のデジタル化

木田宏著『新教育と教科書制度』は、戦後

の教科書制度の出発点を示す資料であり、また、「木田宏オーラルヒストリー」をはじめとした各種資料には、教科書および教科書制度や教材のデジタル化についての重要な証言がある。これらを用いて、教科書のデジタル化、教材開発等についての研究も考えられる。

とくに、「木田宏オーラルヒストリー」の中に収められている、『新教育と教科書制度』を著された際の出来事や思いについての証言は、デジタル化時代に、紙と併せデジタル媒体を用いる教科書や教科書制度を考える上で資料の一つとなる。

大学院生の修士論文における研究利用例

「沖縄のわらべ歌のデジタル・アーカイブ構成方法の研究」

岐阜女子大学大学院沖縄サテライト校
新垣さき（2011年度修了）

新垣さき氏らが進めた研究（修士論文）では、「伝統・文化」がなぜ旧教育基本法で言及されなかったのか、そして、新教育基本法に言及されるまでに「伝統・文化の教育」に空白期間が生じていたことを明らかにしている。そして、その空白期間が生じていたことを考慮し、新しい“伝統・文化”的素材の収集と教育の展開について研究を進めた。

この、旧教育基本法では言及されなかった“伝統・文化”について、新教育基本法で新しく明示されたことの意識について考察するため、木田宏教育資料「木田文庫」の中から、旧教育基本法成立時の第62回帝国議会（教育基本法の審議録）、安倍能成文部大臣の米国教育使節団に対する“あいさつ”等の資料を研究利用した。さらに、沖縄での教育基本法について、沖縄県教育委員会編『沖縄の戦後教育史』等の「木田文庫」以外からの文献資料も加え、考察している。

4. おわりに

木田宏教育資料「木田文庫」・「木田宏オーラルヒストリー」は、広い分野での教育研究において貴重な資料群であり、これらを利用した多くの研究が期待される。このため、岐阜女子大学では、図書館における「木田文庫」の整理、目録化をはじめとして、「木田宏オーラルヒストリー」の冊子化、オーラルヒストリーのデジタル・アーカイブ化によるDVDやインターネットでの提供を行っている。

これに加え、現在試行している研究利用ガイドが整備されれば、大学院生のみでなく、学部生等への研究利用の支援ともなると考える。

最後に、木田宏教育資料「木田文庫」・「木田宏オーラルヒストリー」としてまとめることができたのは、書籍、資料類を寄贈いただいた故木田宏先生、木田望様はじめご家族のご厚意によるものであり、深く感謝いたします。

[引用文献]

- ・後藤忠彦・加納豊子（1997），木田宏教育資料について—昭和22年から昭和53年—，教育情報研究13(4)，日本教育情報学会，p7～17
- ・後藤忠彦（2005），木田宏教育資料のデジタルアーカイブ化について，岐阜女子大学文化情報研究7(2)，p1～13